

1 歳前後の子どもとの関わりについての考察

— 授業時に使用した動画教材への学生の反応を中心に —

佐 藤 久 恵¹

はじめに

保育士養成の授業を通して、0 歳児・1 歳児・2 歳児・3 歳児・4 歳児・5 歳児と順にその特徴を捉えて考察していくときに、学生には乳幼児をみる目のある学生とない学生がいることに気づく瞬間がある。本稿はH大学とM大学の学生の動画教材視聴の様子から「見る目」の違いを明らかにするとともに学生にその事を指摘することで、学生の「見る目」が育つことを紹介したい。

少子化という現状からも、昨今の学生は乳幼児との関わりが薄い。例えば、兄弟姉妹の子どもであるとか、従兄弟姉妹の子どもであるといったことで関わるか、実習先、ボランティア先などで経験があるなど限られた学生だけが体験を持っている程度である。これについて、実習以前の学生に対して質問をし、挙手をしてもらったと40から50名程度のクラスで1, 2 名が体験があると挙手することがほとんどである。加えて、「まる一日以上ともに過ごしたことがあるか？」と質問すると、その体験をしたことのある学生はほとんどいない。

幼稚園教諭や保育士は「昼間に預かる時間だけの子どもを理解するだけ

¹ 東京未来大学

¹ E-mail : satohisae@fc.hakuoh.ac.jp

でいいのだろうか」と疑問に思うこともあるが、多くの学生は「二十四時間を通して」子どもと関わる体験は少ない。また、同様に、「産休後の子ども」がすぐに預けられたとして、「8週間、57日目」からだけの子どものしか知らないということもある。一連続の子どもの成長を、実はまだまだ「とびとびに見ている」「とびとびに学習している」ということがあるのではないだろうか。それらを少しずつ補うために、前半は動画教材としてどのようなものがあるのかを考察した。後半は「出産と出産後1ヵ月」の産後ケアのあり方とその様子について、台湾人の母親のインタビューを掲載し、彼女と子どもとの関わりを紹介した。教職経験のある保護者の動きとその関わりを表す日常の動画は今後の保育士養成の一助になると考えた。

第1章 予想通りの事態

1.0 授業での動画使用

学生にとっての授業が、よりリアルなものになるために動画を使用することは多い。その際に、「その日の教材としてふさわしいこと」「その日のテーマにそっていること」「授業時間を有効につかったもの（15分程度までの所要時間）であること」など、いくつか、守るようにしている事がある。しかし、「見せておきたい」のだが、「退屈に感じるであろう」という動画もときにはあって、この授業時に使ったのは、この種の動画であった。

H大学の授業でも「予想通り」学生は「退屈」になってしまった。そこで、「退屈であれば、なぜ、退屈だったと思うのかも含めて感想を記述してほしい」と加えて視聴後に課題を出した。

1.1 未満児とのかかわりと良質な動画での学びの必要性

学生は実習にいくまでの間に、自ら積極的に関わることはなければ、また、家庭的にそのような状況がなければ、乳幼児を体験的に知らないまま、学習を進めていることになる。

筆者は、授業の中で動画を使用し、教科書での特徴の理解を進め、もっ

と分析的にとらえることはできないかと考え、良質と思われる動画を探しながら使用している。その中で、事前に使用を迷った類の動画があり、それが、1 歳児前後の子どもの動画であった。

今回、考察を深めるために使用した動画は、「0 歳児のあそびと保育者の役割 第2巻」¹というものであった。

授業準備をしながら、これを使用すると「学生は退屈で耐えられない状態」になる可能性があるのではないかと考えた。通常、授業で使用する動画は、ポイントがはっきりしているものが多く、また、後述の意見の中で、学生が述べているように、子供達のトラブル場面であったり、保育士が適確な言葉かけを行っていたり、活動が活発に行われてその成果が見えたとき、または、子供達の活動が混乱をきたして、問題行動が生じたときなのである。他には、子供達の表現した状態が興味深く、面白いとき、なども上げられることが多い。

ところが、今回は、1 歳児が比較的同じ動作を続けているもので、その他の人との関わりも繰り返しの多いものであった。「繰り返しの動作」の中には、小さな少しずつの変化や工夫点もみられ、興味深いのであるが、それらを学生はすぐに理解できないと思われる。勿論、学生は多様であるから、「退屈」などとは思わず、興味深げに、熱心に動画を見て、分析的な感想を書く学生もいる。

1.2 学生が耐えられないと感じる動画

授業で前述の動画を使用したときには、「(予想通り) クラスの多くの学生がその退屈さに耐えられない」という状態になった。しかし、この動画は「子どもを育てたことのある人であれば」どこかで必ず目にしたことのあるほど、ある種、懐かしいかわいらしさを感じるものでもあった。ということは、「学生が退屈で耐えられない」と感じる動画が、子育ての体験を経ていると、または、乳幼児との時間をかけた関わりを経験していると、「退屈」ではなく、むしろ、たいへんに興味深い対象ということになる。

簡略的に、この動画を少し説明してみると、以下のとおりである。

動画① 室内におかれた「ぞうり」の上に足をのせて、どうにかして鼻緒に自分の足を通そうとして努力している3分37秒程度の動画である。

動画② 『きんぎょが逃げた¹¹』という絵本を題材にして、「きんぎょ」「ぞうり」「かえる」などの切り抜いた絵を使いながら、子どもに保育士が関わっては離れ、関わっては離れということをしていくもので、13分57秒程度のものである。この動画は、やや撮影者の意図があるようで、保育者も実は、撮影者の指示に従っているように見える素振りが見え隠れする。

(絵本の内容は、金魚が1ぴき、金魚鉢からにげだした。どこににげた？カーテンの赤い水玉模様の中に隠れている。またにげた。今度は鉢植えて赤い花のふりをする。またにげた。キャンディのびん、盛りつけたイチゴの実の間へ、おもちゃのロケットの隣にも。という具合に、ページをめくるたびに、にげたきんぎょが、どこかに隠れているという設定の絵本である。金魚を探して楽しめ、2歳児くらいからという設定になっている。)

1.3 H大学での学生の反応

H大学での授業後の学生の意見のうち、主だったものは、以下のようであった。

- ① 同じ様な動作が何回も続いた。工夫がなされていないように感じた。
- ② たいくつ。自由な遊びをさせて、とてもよかったと思うのだが、子供との接し方というか、子供との遊び方がもう少し工夫されていて、独自の関わりが出来ていると面白かったのではないかな。
- ③ たいくつ。あまりにも好き勝手に遊ばせすぎている気がした。かなちゃんが、絵本を何冊も何冊も次から次へと出していて、もう少し片付けるということを促しても良かったのではないかと感じた。たくさんやらせて、片付けるという経験は必要だけど、あまりにもという感じがした。

- ④ たいくつ。1歳だから、自分が面白いと思ったことを飽きるまで永遠にやり続けると思っていたけれど、ずっと同じことを繰り返すだけだったのでたいくつだった。同じことをくりかえすのなら、同じ動物をずっとやりつづけるのではなくて、様々な動物を取り入れたらよいと思った。
- ⑤ たいくつ。ずっとおなじ動作を繰り返していたため、子供は本当にそれで良いのかと疑問に思ったが、子供が楽しいなら、それでよいと思った。
- ⑥ 子供がやっていたことに対して、保育者は何もしていなかった。また、子供のあそんでいることがよくわからなかった。子供が何をして遊んでいるのか、何を求めているのか、遊びの内容が何なのか、分からなかった。子供が一人で遊んでいることが多かった。同じ動作を繰り返していた。
- ⑦ 1歳1ヶ月のかなちゃんにとっては楽しく遊んでいるのだが、私にとっては、毎回繰り返し、同じ様なことをやって、同じ様なかなちゃんの行動をしていたので、途中眠ってしまいそうになった。
- ⑧ 金魚をリズムにのせながら隠し、「いなくなっちゃった」というのを繰り返していた気がする。
- ⑨ 金魚の話で、同じことを繰り返して、これが、一回こっきりじゃないと、保育士自身が精神的につらいのではないかと思った。
- ⑩ 接し方としては良いと思う。かなちゃんが何かやろうとしていることに反応して、「〇〇いいね、〇〇するの？」などと声かけがよくされていたからだ。けれども、見ていてかなちゃんの一人遊びについての映像が多かったので眠くなってしまった。
- ⑪ (良い点) 保育者がほとんど途切れること無く話していた。子供の注意をひくように話しかけていた。金魚、象、かえるなどの絵を使いながら、リズムにのせて、隠す遊びをしていた。(すいすい、のしのし、ぴょんぴょん)

(たいくつになった理由) ずっと同じペースで話していた。

同じ事をしていて。→子供は同じ事をしていても楽しい。

- ⑫ 最初の方は、ふつうの乳幼児のビデオとして見ていましたが、あまりにもゆったりすぎて、インパクトみたいなものがなくて、寝てしまいました。

泣きわめくシーンや先生が怒ったりなだめたりする場面があまりなかったというのも理由だと思います。ずっと保育者が話しかけているのは、どうなのかな、子供は成長するのかなと思いました。

- ⑬ 当事者のかなちゃん自身もあまり自ら興味関心を持って遊べていなかったんじゃないかなと思った。

- ⑭ 全否定ではないけれども、もう少し保育者がアクションを起こしてあげてもいいのではないかなと思った。絵本に興味を持っていたらその絵本を使って遊んであげてもよかったのではないかなと感じた。乳幼児期なので、ほぼ、座らせてばかりではなくて、もっと身体を動かせられるように保育者が工夫して上げられたらもっといいのになと思った。でも、ぞうさんときんぎょさんの「サヨナラー」って言ってた遊びはテンポがあったので子供も楽しそうだったのは良かったと思った。

1.4 M大学での学生の反応

M大学での授業後の学生の意見のうち、主だったものを以下に上げた。

- ① ぞうりなど色々なものに興味をもち、[子どもは] 好奇心のかたまりだと思いました。ぞうりがうまく履けず、それでも頑張って履こうとする姿はとてもほほえましかったです。
- ② 保育士は子どもの手伝いをせず、子どもの好奇心のままにこどもにしたいことをさせていた。
- ③ 観てる側はとても退屈だった。保育士は子どもの反応を楽しんでいるようだった。幼児はとても単純でほとんど同じ動きだし、思考も当然幼いので、本当に子どもが好きじゃ無ければ務まらないと思った。

- ④ ぞうりを履くものと理解はしているが、ぞうりを履きたいとはおもっていない。何回か挑戦してからあきらめて違う遊びに移っていったので、履くものだとわかっているが、履きたいという挑戦の気持ちはないと感じた。

『きんぎょが逃げた』では保育士がきんぎょを隠し、その隠す場所を子どもに声をかけて見せることで、子どもが見つけれられるようにして、子どもが見つけたら褒めてあげることかなと思った。

- ⑤ 子どもの反応に声は返しているものの、距離があって、物を広げたり、何度も物を隠させたりしていたのではないかなと感じました。
- ⑥ 草履を足で履くものだとわかっていたのが、1 歳児でもよく見ていると感じた。ぞうやきんぎょを隠す瞬間を見ていないと探すことができない。
- ⑦ ぞうりをはきたい→向きをかえてあげる。
- ⑧ 0～3 才くらいは、やっぱり繰り返しが好きなんだと思った。
- ⑨ いろいろなものへの興味があった。とりあえず、新しい物を出し、本ならぺらぺらひらき、新しい本を見る。おもちゃなら少し遊び、また新しい物を出す。
- 何度か行くと興味をもちはじめ、隠したものを探そうとする。

1.5 学生の反応への考察

動画①については、子育て経験者の多くは、家庭においても、多くの人が見たことのある子どものある時期の一コマであると思う。履き物は、その時々で動画のように「ぞうり」であったり、「サンダル」や「靴」であったりするものの、玄関先や縁側近くなどで、履き物をなんとか履こうとする子どもの様子を、少し遠くで見ながら、様子を伺い、子どもがなんとか履こうとして、履けなくて誰かを呼ぶまで、または、何とか履けるまで見ていう経験があると思う。動画②については、絵本があることを知っていて、この保育士の動作が生じていることを学生が知っている場合と知

らない場合では、学生の興味の持ち方が大きく異なっている。実際に子どもと関わると、動画①、②において反復と思うことが、似てはいるけれど1つ1つが異なる状況として生じているとわかるようになる。まったく同じことは二度と起こらないことに気づく。

第2章 1歳児との家庭での関わり

2.1 G.Sさんの出産と子育て

授業では、G.Sさんと子どもとの新北市中和連城公共托育中心及親子園（以下、親子園）での様子の動画を見せることもある。

台湾在住のG.Sさんは、日本への留学経験もある女性で台湾の小学校の先生でもある。第一子の出産に関する体験のインタビューと、その後の母体のケアの様子について、インタビューの文字化によって以下に表した。（聞き手は筆者・内容は一部編集。）その後の親子園でのG.Sさん親子の関わりを理解する上でも、インタビューの内容は有効であると考えた。

【2015年3月19日 G.Sさんへのインタビュー】

佐藤 話を、30分くらい聞かせて下さい。何月に生まれたのですか？

G 12月31日に。

佐藤 2014年の。

G 2014年の年末。

佐藤 年末ですよ。生まれたときはどのくらいの重さだったのですか？

G どのくらいの？（佐藤 重さ？）3120g、はい。

佐藤 おおお。そうですか。女の子がほしかったですか？

G そうですよ。もとは、12月19日に生まれる。（佐藤 予定だった。）はい。だけど、ずっと待っていて、医者、お医者さんは、もう待つはだめって。

佐藤 ぎりぎりね。

G そう。27日、28日かな。28日に、病院へ行って、ずっと注射とか、

そういうやつと。

佐藤 28日に入院をして、（G はい。）日本では陣痛とかって言うのですけれど、けっこう長い時間かかって。

G はい。

佐藤 生まれたと。

G はい。

佐藤 たいへんだったでしょう？

G そうですね。29かな。そうそう、29かな、28、忘れました。

佐藤 うんうん。

G 29、28かな、3日間でやった。

佐藤 生まれて。日本では2週間くらいの延びるのは、（G そうそうそう。）全然問題なくて。

G 前と後ろ2週間くらいだけど、もう、41週。

佐藤 うんうんうん。

G もうすぐ、42週で。医者さん、お医者さんは、なんか、台湾の医者はいだいたい、42週の前に生まれ。（佐藤 産ませるから。）

佐藤 お母さんのお腹が、居心地がよかったんだね。

G え？わからない。

佐藤 お母さんのお腹の中が気持ちがいいと思うなあ。生まれて、どのくらい入院していたんですか？

G 生まれて、2日かな。2日で、そういう、台湾は月子（ユエツ）という、その習慣があります。それ、生んだあと、30日に、家を出ることがだめなんです。（佐藤 あああああ。）

そして、いっぱい、漢方の（佐藤 お薬を飲んでとか。）料理とか。

佐藤 薬膳というのですかね。

G ああ、はい、多分。はい、薬膳、そうです。家で、自分でつくっても大丈夫ですけど、ちょっとたいへんだと思って。外のそういう病院じゃなくて、機関、専門のそういうセンターがあって。看護師

がいる、だから、赤ちゃんにもめんどうをして、私にも、休んで。

佐藤 休ませて。

G そうそうそう。そういうセンターに15日に泊まって、また、家にもどります。

佐藤 その間、お父さんは？

G ええと。

佐藤 ここの、お一人で？

G いや、そこにも泊め。

佐藤 泊められ、泊まることできるんですか？

G はいはい。

佐藤 はあああ。

G 一緒に。仕事が終わって。

佐藤 そこに泊まって。

G そうそう、そう。

佐藤 ああ、便利ですね。

G はい。でも、普通は、30日間なんですけど、ちょっと高い。

佐藤 そうでしょうね、やっぱりね。お金が気になりました、私も。

G そうそうそう。

佐藤 話を聞いていて。

G 1日は、——私泊まった部屋はいちばん安いんだけど、1日は4900円です。

佐藤 だから、日本円にすると、もう、15000円、16000円。——今だったらもっと高いかもしれない。円安だから。

G はい。高いです。

佐藤 ホテル並ですよ。

G はい。でも、これは安い(佐藤 ^{ホウ}方なんだ)。はい。新北市の値段なんですけど、同じセンターも、5600円の値段もあるし、もし、台北市のセンターは5000元とか、8000元とか、1万以上とかもあります。

佐藤 そこに、ほぼ、1ヶ月泊まる人たちがいるんですか。

G はい。

佐藤 すごい、はああ、お金持ち。

G そうかな（笑い）

佐藤 （笑い）

G はい。

佐藤 でも、朝昼晩、御飯がでるんですか？

G はい。あとは、午後のそういうデザート。

佐藤 うんうん。

G 夜も、薬膳。

佐藤 薬膳がでると。

G はい。

佐藤 へええー。具体的には、美味しいのですか？

G まずいとは言えないですけど、そういう料理は、よく同じ料理が出るから。

佐藤 （笑い）

G ちょっと、うー。

佐藤 そうか、栄養をつけたり、バランスをとったり、妊婦さんが早く（G そうそう。）回復したり。

G そうですよ、はい。

佐藤 赤ちゃんには、そのセンターでは、お母さんが母乳を与える、それから、人工栄養も与えるのですか？

G 人によって違いますけど、私は、昼間には全部自分で。夜は、だいたい10時頃で、何かそういう全部の赤ちゃんが、そういう部屋があって、もし、赤ちゃんにそこに送って、先に。授乳。

佐藤 しておいて。

G そうそうそうそう。

佐藤 パックみたいなのがあるんだ。母乳をすでにしておいて、そして、

それを。

G はい。もし、足りない場合は、ミルク——、そういう赤ちゃんのミルクも。

佐藤 与えてくれると。

G そうそうそうそう。でも、だいたい、自分で。

佐藤 お母さんが、主に。

G 私の場合ですけど。

佐藤 うん。

G もし。休んだり、休みたい場合は、全部の時間に、そういう、赤ちゃんの部屋に。

佐藤 ああああ。

G そういう人もいる。

佐藤 そうですよ、難産だったり、すごく、お産がたいへんだったり。

G あとは、そういう何か、台湾には何か、最初の30日は妊婦が休み時間が。

佐藤 大切。

G はい、

佐藤 うううん。

G あとは、私は昼間に、ニョニョ（ニックネーム）はいつも、私の部屋なんですけど、ある人は、授乳して、赤ちゃんの部屋に送って、また、電話して、赤ちゃんがまた、食べたいって、また来る。そういう人もいます。

佐藤 いろんなタイプの関わりができるのですね。

G はい。

佐藤 お母さんと赤ちゃんが「一緒にいたい」という人は一緒にいられるし、母乳だけ挙げると、ちょっと離しておいて、という。（G はい。）という人も。それから、ずっと、ほぼずっと離しておいてというような人たちもいるわけね。ああそうですか。そのセンターとい

うのは、正式な名称はなんと言うのですか？

G 月子中心。

佐藤 ユエツツオンシン。

G 「月子」は。

佐藤 月の子。

G はい。生んだ最初の一ヵ月。

佐藤 ああああ、うんうん。

G 台湾には、ツオユエツという、この1ヶ月は、休んで、いろんな食べものを、そういう薬膳とか食べて、家を出るとか、いけないとか。あとは、昔は髪を洗うとかそういうのはダメとか、そういう。

佐藤 言っていましたよ、日本でも。

G はい。あ、そうですか。

佐藤 言っていました、言っていました。

G 今は、それは、人によって違うけれど、私は、10日だけで。

佐藤 我慢できない！

G 洗いました。

佐藤 いろんなことがありますよね。日本で聞いたのは、左右の体温、右側と左側の温度を計るでしょう？体温を計るじゃないですか、温度が一緒になったら立ち上がっていいとかっていう人たちもいるんですけど。

G 一緒に？

佐藤 だから、（脇の下の）両方が同じ温度にならないんですって。

G あああ。

佐藤 出産したあと。

G そうですか。

佐藤 だから、左右のバランスが、腰のバランスとかがみんな崩れてしまってます。

G へええ。

佐藤 久 恵

佐藤 というのを聞いたことがあります。

G そうですか。

佐藤 でも、今日本の女性は、けっこう無理をしていると思いますね。産後。台湾の今のシステムの方が、ずっと大事にしていると思いますね。

佐藤 まだ、3時間おきに母乳をあげている、生活。

G 先週は、1時間、2時間くらい。

佐藤 ああああ。

G ミルクの方が、長い時間ができるけど、自分が授乳して、それはちょっと最近は3時間。先月はまだ2時間。

佐藤 ああ。厳しいね、まだね。

G (笑い) 来月は4時間ほしいのですけれど。

佐藤 ああそうですかー。でも、仕事は1年間お休みですか？

G いや、この学期だけ。

佐藤 この学期だけなの？

G はい、半年。

佐藤 あらーそれで復職するのですか？

G はい。

佐藤 Gさん、えらいねー。

G え、どうしてですか？

佐藤 だって、ほら、半年でさー。幼稚園に預けるのですか？

G いや、たぶん、姑。

佐藤 おばあちゃまが。

G はい。

佐藤 見て下さるのですか。

G 私、前は、ここに住んで、じゃないのですが、妊娠したときは、姑はここの近くに住んでいるから、主人は。(佐藤 こっちがいいと。) うん。ここに、越して。

- 佐藤 Sさんが「いいところにお住まいですね」って言っていた。ここ。
- G ああそうですか。
- 佐藤 うん。
- G これは、自分の、それは、借りて。
- 佐藤 そうか、もちろん、そうかもしれないけれど。図書館もあるし、駅に近いし。
- G そうですよ。
- 佐藤 いい場所ですよ。
- G そうそうそう。だから、料金が高いです。前は、台北市に住んで、こちらには、前の家より高いです。
- 佐藤 高い。うわあ。
- G 前は、エスカレーター、エレベーターかな、そういうがない。
- 佐藤 ああああ。
- G それで、6階。だから、妊娠したときは、ちょっとたいへん。
- 佐藤 たいへん。たいへん、それは。
- G だから、こちらに。
- 佐藤 うん。
- G ちょっと高いけど、主人はそれはいいと。
- 佐藤 因みにいくらだったんですか？こっちは。
- G 17000元、一ヶ月。
- 佐藤 一ヶ月ね。
- G はい。
- 佐藤 けっこういいお値段ですよ。
- G これ、中和？
- 佐藤 中和区。
- G 中和区と永和区、それは台北市に、近いから値段は。
- 佐藤 同じか、高い？
- G そうそうそうそう。(終了)

2.2 台湾の親子コミュニケーション施設での一コマ

2.2.1 新北市中和連城公共托育中心及親子園でのこと

①



②



③





親子園で過ごした時のGさんの子どもは、この時10ヶ月くらいである。母であるGさんの関わりは、前述のビデオの保育士とは明らかに異なる。その違いは、親である、保育士であるなど立場の違いから生じているということも、もちろんあるが、子どもの興味に合わせて、子どもが手に取ったものや、子どもの寄っていったその方向にあるものでGさんが対応しているという点が異なっている。彼女自身が教員であることも、影響していると考えられるかもしれないが、適切に、子どもの行動を予測するというをしている。例えば、写真⑤で別のこどもがあらわれたときには、お互いに知らない同士ということもあって、お互いが怪我をしたりしないように気をつけて対応している。訪問した施設での場合は、予測できないこ

とも多く、園内の同じクラスでお互いに知っている子どもが複数いる状態とは異なる配慮をしていることもわかる。

3 まとめ

本稿では、まず、学生の多くが「退屈だと感じた動画」について、考察した。「退屈」だと感じない学生は、その時期の子どもの特徴をすでに知識として知っていたり、体験としてそのくらいの子どもと関わりのある学生がほとんどであった。

「子どもとの関わりの体験」によって見方に変化が起こり、より子どもを踏み込んでみているということが起こっている。一方、「退屈だ」という学生に、どこから見るのが苦痛になったのかという質問をすると、「繰り返しの動作」それから「子どもがばらばらと本を取り出したところ」というような回答が続いた。「子どもに対応する経験が見方を変える」ということもできるかもしれないが、熱心に視聴する学生は、「子どもの繰り返しの動作」や「できないで挑戦している行為」などが、退屈なものではなく好ましいものとして解釈しながら視聴していた。また、保育士の動作についても、そこに意味が見いだせると、動画の興味がまし、自分であつたらどうするのか、という意欲が生まれてくるようであった。

第2章でGさんの例を取り上げたのは、子どもを出産し、子どもと関わっていく様子において、現代の台湾人はどのようなものであるのか、という点をインタビュー部分で紹介し、その後の10ヶ月に成長した子どもに対しては、どのように接しているのか、保育者と保護者との関わりの異なりという点から「子どもへの丁寧な関わり」は、どこにおいて違いが生じてくるのかということを考える視点の提供としてである。産後の様子は現代の日本とは異なると思う。また産後のケアは日本よりも手厚いのではないか。以前日本でも言われていた産後のよき風習がむしろ台湾に残っている。この時に与えられた回復のための時間や思いやりは、その後の子どもとの関わりづくりに影響している考える。

付言すると、教職についている保護者が、日常で我が子とどのように関わっているかを紹介することは、保育の視点を変える一助にもなると考える。今後の課題につなげたい。

注

- i 『0歳児のあそびと保育者の役割』監修 社会福祉法人母子愛育会／日本子ども家庭総合研究所
- ii 五味太郎文・絵『きんぎょがにげた』福音館 1982年

謝辞

東京未来大学こども心理学部所澤潤先生、神部秀一先生に貴重なコメントを頂きました。G.S氏には台湾での現代子育て事情を快くお話して頂きました。ここに記して深く感謝申し上げます。